

# いわき石川線 大規模地すべり災害復旧工事 最新情報

## 1. 才鉢工区の工事が完成しました！

平成23年4月11日に発生した井戸沢断層の活動を誘因とした最大震度6弱の直下型地震により、田人町石住字才鉢地内では大規模な地すべりが発生し全面通行止めとなりました。

現地の測量・設計業務を速やかに実施し、平成23年6月13日には応急工事（仮道工L=550m）に着手し、9月20日に工事を完成させ通行止めを解除しました。その後、災害査定（第13次査定）を受け平成24年3月16日に本格的な復旧工事に着手し、平成25年3月19日に無事故・無災害で優秀な出来栄えの工事が完成しました！



工事完了全景写真



起点側の状況



終点側の状況

## 2. 「だからこの仕事が好き！」

過酷な現場条件の中、「いわき石川線の復旧無くしていわき市の復興無し！」をスローガンに高度な技術力を発揮して品質の高い公共物（道路施設）を完成させていただいた「**福浜大一・常磐開発・渡辺組**建設工事共同企業体」の皆様から寄せられた声を紹介します。



工事を振り返ると早いもので1年間があっという間の事でした。この工事を通して近隣にお住まいの方々とは当然接する機会も多くあり、毎日同じ場所で工事をしている我々に「おはよう。今日もご苦労様！」と挨拶をしてくださる方もいます。また工事の後どの様になるのか興味を持たれる方も多くいらっしゃいました。その様な地域の方々と話し合いをしながら工事を進め、工事中は不便が無いように色々気を使ってまいりました。そして、たまに感謝の声をいただくと、やっぱりこの仕事をしていた良かったと感じました。

最後に、無事無災害で竣工出来たのも、行政側のワンデーレスポンスによる回答が早かった事により無駄、手戻りの無い工事を進められた事だと思っています。復旧復興部の皆様1年間ありがとう御座いました。 **現場代理人 古川 真一**



工事を着手して早一年が経ちました。高低差65mの緩んだ地山、自分の足で登り眼下の河川が見えない状況に、自然の力の強大さに鳥肌が立ったことを思い出します。そういった中ハイスピードで進む工事、そのような速さで進めることができたのもいろいろな問題に即対応していただいた復旧・復興部、工事車両等の往来が非常に増えた中温かく見守ってくださった近隣の皆様のおかげだと大変感謝しております。また、そういった速さかつ過酷な夏の暑さの中、多くの作業員を当現場に注ぎ込んでくれた協力業者の皆様には頭が上がりません。こ

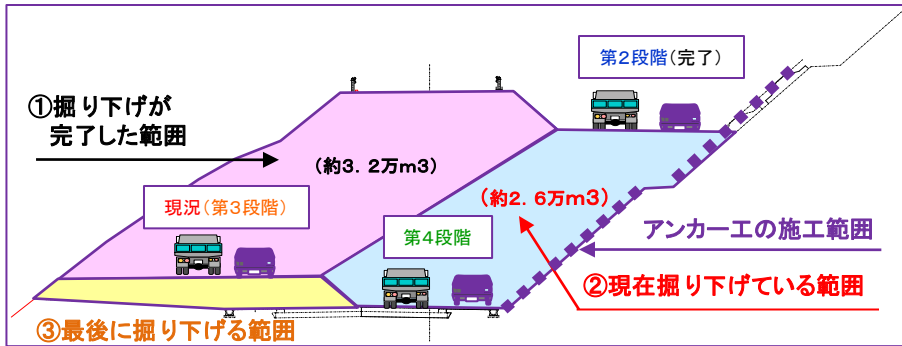
ういった事を思い振り返ると、これほど団結の強かった現場は今までにないものだと感じています。また、工事完了の挨拶を近隣の方にしたとき、「寂しくなるね」と言葉をいただいたときは感無量でした。このような経験を糧に、福島県の復旧・復興のために微力ながら協力させていただきたいと思っております。本当に一年間ありがとうございました。 **主任技術者 片寄 裕久**

主任技術者として、主に施工管理に携わっていた戸田と申します。福島県を始めとして、全国的にも注目を浴びている、この工事(才鉢工区)に携わることが出来て、また、厳しい工期内に無事故・無災害で竣工を迎えたことが、とても大きな誇りとなりました。今後も続けていくであろう土木技術者としての大きな財産になるとともに、古川所長を先頭に最高の企業体・協力業者のメンバーと一緒にゴールへと進めた一年間は、とても有意義でした。最後に、毎日のように現場へと足を運び、一人一人の作業員にも声を掛け健康管理にも気を配ってくださった熊坂技師をはじめ、復旧・復興部の皆様ありがとうございました。 **主任技術者 戸田 利広**



### 3. 起点側の道路は被災前の高さまで掘り下がりました！（上釜戸工区）

現在、「第4段階」へ移行するための仮道工（説明図内②の範囲）の掘り下げ 工事と法面補強工事（グラウンドアンカー工）を行っておりますが、起点側の一部区間が被災前の道路の高さ（第4段階の路面高さ）まで掘り下がりました。舗装面が著しく損傷しており、地すべり災害の規模の大きさを物語っています。



【車線切替え工事の説明図】



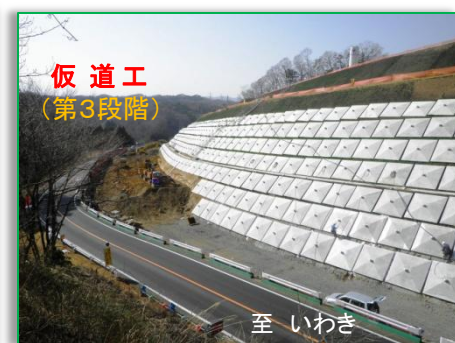
「第4段階」の路面高さの状況



終点側



中間点



起点側

### 4. 東日本大震災で被災した道路と橋梁の復旧状況（いわき建設事務所管内）

平成25年3月末の復旧状況は、地震災害と津波災害の全体で着工率が100%、完了率が96%となっています。現在着工している工事箇所（5箇所）については、9月末までに工事が完了する予定です。

災害種別	工事種別	着工可能箇所数	着工件数	着工率	完了件数	完了率
地震災害	道路災害復旧工事	99	99	100%	97	約98%
	橋梁災害復旧工事	9	9	100%	9	100%
	小計	108	108	100%	106	約98%
津波災害	道路災害復旧工事	10	10	100%	8	80%
	橋梁災害復旧工事	1	1	100%	0	0%
	小計	11	11	100%	8	約73%
合計		119	119	100%	114	約96%

## 5. 上釜戸工区で施工した法面補強工事の事例紹介

法面補強工事とは、崩壊した法面の浸食や風化を防止するため、植生または構造物で法面を被覆するものです。上釜戸工区で施工中のグラウンドアンカー工の施工順序を紹介します。（才鉢工区は「情報No.9」で紹介済みです。）

■グラウンドアンカー工：すべり土塊の滑動力に対抗して法面の崩壊を防止する工法。上釜戸工区は才鉢工区に比べてすべり土塊が大きいため、設計アンカー力は才鉢工区の約1.7倍となっています。受圧板（3m角）1枚当たりの重量は約5.8 tです。



崩落土掘削積込状況



法面整形状況



アンカー工削孔状況



受圧板設置状況



アンカー工緊張・定着状況



アンカー工施工完了

## 6. 編集後記

平成24年6月に「情報No.1」を発行してから毎月1回の頻度で「最新情報」を提供させていただきました。この間、月平均約500件のアクセスをいただきました。災害復旧工事ですので1日も早く工事を進めることは当然ですが、施工JVの皆様と一体となった各種の奉仕活動等の地域貢献活動を通じて「地域の皆様の期待に応える公共事業のあり方」について再認識することができました。「才鉢工区」の工事が完成し、また今回の定期人事異動により各監督員及び事務担当者が異動することとなったため、「最新情報」の提供は本号で一区切りとさせていただきます。ありがとうございました。



熊坂 中濱 渡邊

### 【事務担当】

復旧・復興課 道路・橋梁復旧担当 主任主査 渡邊 敦宏 電話：0246(35)6075